

目次

重症心身障害病棟「夏まつり」を開催しました	1
看護部だより	2
部門（コメディカル）紹介	3
特別室のご案内	5
おしらせ	
患者数	6
外来医師担当表	7

発行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会
国立病院機構
発行責任者：萩野 哲男
住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町 11-35
電話：055-253-6131
ファックス：055-251-5597
ホームページ：http://www.hosp.go.jp/~kofu-hospital/
Eメール：kofu@kofu.hosp.go.jp



独立行政法人 甲府病院 の理念
国立病院機構
National Hospital Organization Kofu National Hospital

理念

私たちは、良質な医療の提供を通して、患者さんの健康を支え、地域社会に貢献します

基本方針

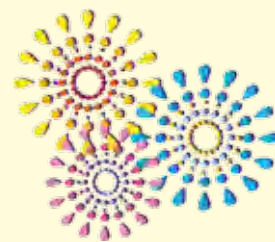
●丁寧な説明に努めます ●自己研鑽に励みます ●職員同士協力し合います

私たち職員は、理念を実現するため最善を尽くします
病院は、職員の働きやすい環境を積極的に提供します

重症心身障害病棟「夏まつり」を開催しました

療育指導室 主任児童指導員 齋藤 千尋

7月25日に重症心身障害病棟「夏まつり」を開催しました。夏まつりは、利用者さんに夏の雰囲気を楽しんで頂くと共に、地域との交流を目的に毎年実施しています。今年も多くの利用者さんに参加して頂けるよう、昼の部と夜の部の2部構成とし、昼の部は各病棟デイルーム、夜の部は療育訓練棟にて実施しました。



昼の部では、縁日（綿あめ）、ボランティアさんによるフラダンス・職員によるバンドやお神輿などにより、病棟内がお祭りの雰囲気で盛り上がりました。

夜の部では、近隣小学校のブラスバンド部演奏や職員によるバンドやボランティアさんによる演奏、お神輿などを行いました。小学生によるブラスバンドは、小学生がグラウンドで一生懸命演奏をしてくれました。職員による出し物は、数ヶ月前から練習を重ね、息の合った演奏を披露する事が出来ました。お神輿では、療育活動で作製したお神輿の紹介と各病棟行事係から病棟の紹介等を行いました。そして、夏まつりの最後は、仕掛け花火や打上花火で締めくくりました。

当日は猛暑のため、グラウンドに出ることが出来ませんでした。療育訓練棟からブラスバンド演奏や花火を見ることができ、ご家族も利用者さんも夏の雰囲気を楽しんでいる様子でした。



利用者、ご家族、ご来賓、ボランティア、地域の方々など多くの皆様のご協力により、楽しい夏の一時を過ごす事が出来ました。ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。



看護部だより

院内教育プログラムラダーⅡ 「メンバーシップ・リフレッシュ研修」

3病棟師長 橘 朋美

2年目の看護師を対象にメンバーシップ・リフレッシュ研修を行いました。

研修目的：チーム内の状況を把握し、チームが円滑に進むことを考えた行動がとれる。

研修目標：①看護チーム内のメンバーの役割が理解できる

②チームが円滑に進むためにメンバーシップ行動がとれる

研修内容：メンバーシップ研修は講義・グループワーク

リフレッシュ研修はグループワーク・院外活動

メンバーシップの講義で学んだ内容を活かせるようにメンバーシップを発揮しながら自分達がリフレッシュできる行動計画を立案し、実際に院外で行動しました。4チーム編成。

研修結果：各チームともメンバーシップを発揮しながら行動計画にそってリフレッシュすることができました。

2年目看護師からは「今回のメンバーシップで学んだ事を病棟でいかしていきたい。」
「自分の意見だけでなく、チーム皆の意見を聞き、まとめていくことがよいチームになることを学んだ」などの意見が聞かれています。これらの意見よりメンバーシップを十分に学ぶ事ができたのではないかと思います。

まずはランチ！
皆でイタリアンを食べようと計画して
このお店に決めました！
おいしかったです。



チーム対抗でボーリング対決をしました！
目標は皆ストライクです！



自分たちで魚を釣って、お店で料理
をたべました。



お城の中庭で、バトミントンの試合を
しました！



科学博物館に行つてきました。皆で
大きなシャボン玉を作れるか挑戦中
です。



部門(コメディカル)紹介

「放射線科」

診療放射線技師長 熊谷 広和

1895年11月8日(明治28年)ドイツの物理学者レントゲン博士によって発見されたX線は、医学の発展に多大な貢献をしました。当時日本では論文発表後すぐに全国各地でX線の研究がされていたようで、その代表的な人物が島津源蔵(島津製作所創業者)です。また、北杜市出身の丸茂文良医学士もその一人でネット上にはその医学者としての功績が載っています。ぜひ検索してみてください。

さて、当院の放射線科は診療放射線技師6名、事務員1名、非常勤医師1名(月曜日午後)で行っています。主な医療設備は一般撮影、ポータブルX線装置、骨密度測定、X線TV、CT、MRI、RI、があります。患者さんが安心・安全に検査が行えるよう業務を行っています。また、当院の地域医療連携室では地域の医療機関から検査のみの患者さん紹介も受けています。

主な医療設備

一般撮影装置：

いわゆるレントゲン撮影です。胸部や手、足のエックス線写真を撮影します。

ちょっと前までは、フィルムを使用していましたが、現在では一部フィルムもありますが、通常の診療にはパソコンモニターで観察します。



ポータブルエックス線装置：

撮影室までの移動困難な患者さんや手術室で撮影します。

バッテリーで動いて撮影もできるため、災害等で停電になっても撮影できます。



骨密度測定検査：

骨の硬さを測定します。

10分～15分程度仰向けに寝て検査をします。



X 線 TV :

ちょっと前まで胃のバリウム検査等を行っていた装置です。最近では胃カメラ、大腸カメラに代わって出番は少なくなっていますが、体内に管を挿入するときなどはなくてはならない装置です。

**CT 検査 :**

体の輪切りの平面画像や立体的な 3D 画像を作成し、数十枚から多いときには 1000 枚以上の画像で病気の診断をします。また、骨折やがんなどの術前検査では立体的構造の把握にも利用します。

**MRI 検査 :**

2 台の MRI 装置があります。エックス線を使わず、磁石と電波で平面画像や立体的な画像を作成します。CT と MRI どちらがいいの？とよく聞かれますが、どちらも利点欠点があり、症状に合わせて検査を行います。

**RI 検査 :**

放射性医薬品を使用して画像を作成します。CT、MRI の進歩で検査が少なくなっていますが、CT 検査や MRI 検査は、主に臓器の形態の異常を調べるのに対し、核医学検査は、投与された放射性医薬品の分布や集積量、経時的変化の情報から、臓器や組織の形態だけでなく、機能や代謝状態などを評価することができます。



特別室のご案内

甲府病院では4つのタイプ・5つの金額設定の特別室をご用意しておりましたが、今年7月より新たに4病棟に「特別室（E室）：3,240円」のお部屋を1部屋増やしました。

主な設備は冷蔵庫（有料）・椅子・ロッカー・電動ベッド・液晶テレビ（有料）となります。

入院期間中は、患者様のプライバシーに配慮させていただきますが、これを機に快適な特別室のご利用も是非ご検討下さい。（※写真はA室からD室となっております、E室は含まれておりません）

特別室（A室）：1日 6,480円



- ・設備：バス、シャワー、トイレ、洗面台
応接セット、冷蔵庫、椅子、ロッカー
電動ベッド、液晶テレビ

特別室（B室）：1日 5,940円



- ・設備：トイレ、洗面台、応接セット、冷蔵庫、椅子
ロッカー、電動ベッド、シャワー、液晶テレビ

特別室（C室）：1日 5,400円



- ・設備：トイレ、洗面台、応接セット、冷蔵庫、椅子
ロッカー、電動ベッド、シャワー、液晶テレビ

特別室（D室）：1日 3,780円・4,320円



- ・設備：トイレ、洗面台、冷蔵庫（有料）、椅子
ロッカー、電動ベッド、テレビ（一部有料）

プライベートな時間を大切に！

○ご利用方法及び注意事項等

- ・特別室の利用を希望される場合は、「特別室利用申込書」を提出して頂きます。
- ・料金は全額自己負担となります（自賠責保険適用時を除く）。毎月の定期請求もしくは退院会計時に診療費と一緒に支払頂きます。
- ・特別室に入室後一般病室転室を希望される場合は、「特別室退室届」を提出していただきますので、ご了承ください。
- ・特別室料金の計算は、午前0時を起点としておりますので、入院日・退院日・移室日も1日料金とさせていただきます。（例：1泊2日で入室した場合は2日分の料金となります。）
- ・入室状況によっては、ご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。
- ・この他にも詳細は病院にあります「特別室のご案内」にて記載されておりますので、ご希望の方は病院スタッフまでお声掛け下さい。

おしらせ

甲府病院「職員納涼会」を行いました。

重心病棟夏まつりの翌日、毎年恒例の職員納涼会が行われました。病院全体での食事会はこの納涼会だけであり、医師や看護師だけでなく、様々な部署の病院勤務者が仕事の垣根を越え、交流を深めました。



平成 30 年度一日平均患者数

入院 ※年間累計は8月1日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

種別\月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一般	103.6	106.3	111.4	112.3									108.4
重心	126.7	125.9	125.6	126.1									126.1
計	230.3	232.2	237.0	238.4									234.5

外来 ※年間累計は8月1日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	300.8	310.3	306.7	317.4									308.8

外来医師担当表

平成 30 年 6 月 1 日現在
…女性医師等

			月	火	水	木	金
一階診察室	消化器内科	診察室	高岡 (受付は10:30まで)	稲岡	鈴木(雄) (受付は10:30まで)		稲岡
	消化器外科	診察室 1	鈴木(哲)	鈴木(哲)		鈴木(哲)	
		診察室 2	浅川	浅川	土屋		土屋
		診察室 3	牧(第2週のみ)				
		化学療法(5階)	診察室 1		土屋	鈴木(哲)	
		診察室 2			浅川		
	内科	診察室 3			樋口	中尾	
		診察室 4	黒澤 予約のみ	黒澤	黒澤		黒澤
		診察室 5	樋口	古屋(直)	古屋(直)	樋口	辰野(百)
		診察室 6					樋口
	循環器内科	診察室 6	葉袋	中村(貴)			
	呼吸器内科	診察室 3・6			(午後)曾我美 (診療室6)		星野(診療室3) (受付は10:30まで)
	神経内科	診察室 7			太田(恵)		太田(恵)
	脳神経外科	診察室 8	長沼	長沼	長沼	長沼	長沼
診察室 9 (共用)						大学医師	
皮膚科	診察室 9 (共用)			川村 (受付は10:30まで)			
整形外科	診察室 10	整形外科	整形外科		整形外科	整形外科	
整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	午前	萩野		古屋	萩野	齋藤
		午後	第1・3週 小児外来 若生				
	2	午前	齋藤	千賀	千賀	古屋	千賀
		午後		脊椎外来 小田			
	3	午前	落合	落合		落合	
	4	午前	山下	山下	佐藤	山下	佐藤
5	午前	装具外来		装具外来			
二階診察室	検査室	内視鏡	午前(上部)			村松	
			午後(下部)			白勢	
	超音波	午前	腹部 検査科 心臓 検査科	腹部 検査科 心臓 検査科	腹部 検査科		腹部 検査科
		午後					
小児科	1	内田	内田	久富	内田	内田	
	専門外来 1 (午後・予約のみ)	後藤(腎)	久富・勝又 (フォローアップ・乳健)		予防接種 シナジス(冬季)	後藤・大山 (フォローアップ)	
	専門外来 2 (午後・予約のみ)	勝又(循環器)		神経 中村			
産婦人科	1	午前	滝澤	雨宮	朝田	雨宮	滝澤
		午後(予約のみ)	出生前遺伝 カウンセリング外来				
	2 (予約のみ)	雨宮	朝田	大学医師	滝澤	朝田	
眼科		古屋(敏) 予約のみ	古屋(敏)	古屋(敏)		古屋(敏)	
泌尿器科(予約のみ)		大学医師 奇数週					
耳鼻咽喉科					矢崎		

●受付時間 初診/午前8時30分～午前11時00分 再診/午前8時20分～午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)
(※水・金曜日午後呼吸器内科の受付時間は13:00～15:30です(診察13:00～16:00))

※右記のものについては事前の予約が必要となります。
●小児科 専門外来 ●乳児健診 毎週火・金曜日 ●毎月第4金曜日 糖尿病教室 黒澤医師 ●予防接種(小児科) 毎週木曜日 ●脳ドック 毎週月・火曜日午後 ●出生前遺伝カウンセリング外来 毎週月曜日

助産師・看護師による専門外来のご案内

●母乳外来(月～金曜日) ●フットケア(月～金曜日) ●育児相談(月～金曜日) (※事前の電話予約をお願いいたします)

特殊外来ご案内

・「物忘れ外来」については、脳神経外科で行っています。ご家族が「忘れることが多い」と気づいたら、受診されることをお勧めします。

作品募集

「てんじん」に掲載する写真等の作品を募集しています。

★宛先 国立病院機構甲府病院 経営企画係 常盤
e-mail:tokiwa-k@nhokoufu.hosp.go.jp

平成 31 年度 職員採用試験案内

看護師・助産師・看護助手の採用試験(パート)は随時行っています。	
申し込み方法	*下記の電話番号に(平日8:30~17:15)直接ご連絡下さい。
連絡先	国立病院機構甲府病院 庶務係長 TEL:055-253-6131 FAX:055-251-5597

編集後記

短い梅雨が終わり、暑い夏を迎えました。看護部では若手看護師がリフレッシュを兼ね自分達で計画を立て院外で研修を実施しました。それぞれが、自分の役割を自覚し「協力する大切さ」を学んだようです。この学びを病棟で活かし良い看護に結びつけたらと思います。